

# SmartPSSLite

## スタートマニュアル

## 目次

1 概要	3
2 インストールとログイン	3
2.1 インストール	3
2.2 ログイン	3
2.2.1 初期化	3
2.2.2 ログイン	7
2.3 パスワードリセット	8
2.4 フィードバック	8
3 メインメニュー	9
4 システム	11
4.1 基本設定	11
4.2 モニタリング設定	12
4.3 イベント設定	13
4.4 ローカルパス	14
4.5 データ管理	14
4.6 出勤設定	15
4.7 バックアップと復元	15
5 デバイス管理	16
5.1 デバイスの追加	16
5.1.1 自動検索によるデバイスの追加	16
5.1.2 デバイスの手動追加	17
5.1.3 デバイスのインポート	19
5.2 デバイスの削除	19
5.3 デバイスのバックアップ	20
5.4 デバイスの編集	20
5.4.1 デバイス情報の編集	20
5.4.2 初期化	20
5.4.3 IPアドレスの変更	23
5.4.4 デバイス設定	23
5.4.5 アラーム設定	26
6 ログクエリ	27
7 イベント設定	28
8 イベントセンター	30
8.1 ページの概要	30
8.2 ライブビュービデオの設定	31

---

## 1 概要

SmartPSS Liteは中小規模ソリューション向けに開発されたクライアントソフトウェアです。  
必要に応じて、さまざまなソリューションをダウンロードできます。  
このマニュアルでは、一般的な機能と操作について説明します。

## 2 インストールとログイン

### 2.1 インストール

SmartPSS Liteを入手します。

SmartPSS Liteのソフトウェアパッケージを入手した場合は、ページの指示に従ってソフトウェアをインストールして実行します。

### 2.2 ログイン

#### 2.2.1 初期化

初回ログイン時にSmartPSS Liteを初期化します。ログイン用のパスワードの設定や、パスワードをリセットするためのセキュリティ上の質問などが含まれます。

ステップ1 SmartPSSLite.exeをダブルクリック。

ステップ2 ドロップダウンリストから言語を選択し、「I have read and agree the software agreement」を選択して「Next」をクリックします。

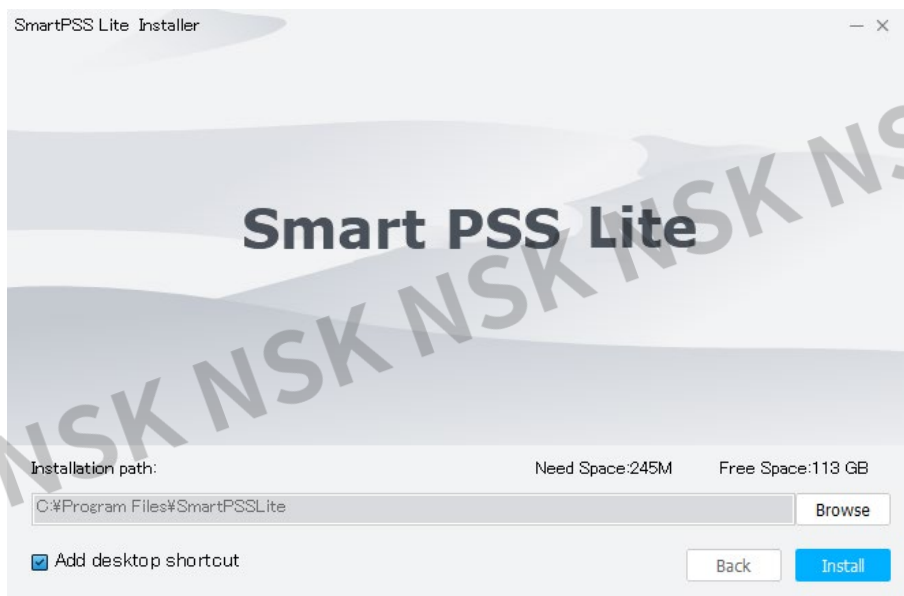


図2-1 言語の選択

ステップ3

Browse(参照)をクリックしてインストールパスを選択し、Install(インストール)をクリックします。

図2-2インストールパスの選択



ステップ4

「Finish」をクリックし、インストールを終了します。



「Add desktop shortcut」に☑をするとデスクトップにショートカットが作成されます。

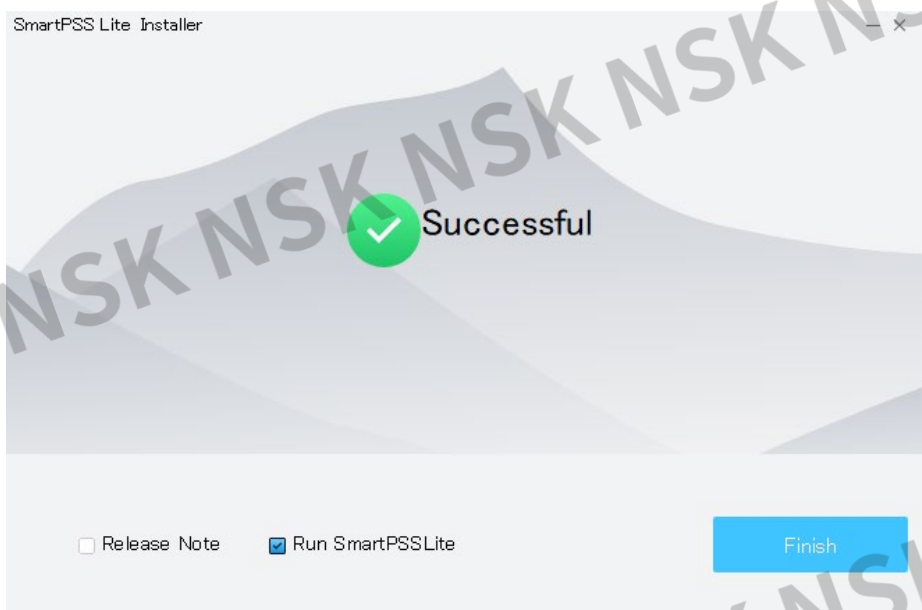


図2-3インストール完了



「RunSmartPSSLite」に☑をしてSmartPSS Liteを起動します。

ソフトウェアライセンス規約

## SOFTWARE LICENSE AGREEMENT

Last modified: Jul 21, 2020

### 1. PREAMBLE

IMPORTANT NOTICE, PLEASE READ CAREFULLY:

1.1 This Agreement is a Software License Agreement between you and Zhejiang Dahua Technology Co., Ltd. ("Company" or "We"). Please read this software license agreement (hereinafter referred to as "Agreement") carefully before using the Software. By using Company Software, you are deemed to agree to be bound by the terms of this Agreement. If you do not agree to the terms of this Agreement, please do not install or use the Software, and click the "disagree" button (If there is any provision for "agree" or "disagree"). If the Software you get is purchased with Company device, and you do not agree to the terms of this Agreement, you may return this device and Software within

ソフトウェアライセンス規約を読み、内容に同意しました。

プライバシー

## Product Privacy Policy

Last modified: Jul 21, 2020

### 1. Introduction


Zhejiang Dahua Technology Co., Ltd. ("Company," "we," or "us") respects your privacy and is committed to protecting it through our compliance with this Product Privacy Policy (the "Policy"). This Policy describes the types of information we may collect or that you may provide to us when you use this product as manufactured by Zhejiang Dahua Vision Technology Co., Ltd. (the "Product"), and our practices for collecting, using, maintaining, sharing, protecting and disclosing that information.

This policy applies only to information we collect when you use the Product. This policy does not apply to products or services provided by third party companies or individuals (hereinafter referred to as "Third Party Services").

Please read this Policy carefully to understand our policies and practices regarding your information and how we will treat it.

ソフトウェアプライバシーポリシーを読み、その条項に同意し...

ステップ5 「同意して続行」 をクリックして、ソフトウェア使用許諾契約と製品プライバシーポリシーに同意します。

 「ソフトウェアプライバシーポリシーを読み、その条項に同意し…」に☑をしてSmartPSS Liteを起動します。

ステップ6「初期化」ページでパスワードを設定し、「次へ」をクリックします。

図2-4パスワードの設定

表2-1初期化パラメータ

パラメータ	説明
パスワード	パスワードは、8～32文字の非空白文字で構成し、大文字、小文字、数字、特殊文字（'";:&を除きます）のうち、少なくとも2種類の文字を含む必要があります。
パスワードの強度	サイバー攻撃に対するパスワードの有効性を表示します。緑はパスワードが十分に強いことを意味し、赤は強度が低いことを意味します。
確認	パスワード確認のため、もう一度パスワードを入力します。
登録後の自動ログイン	SmartPSS Liteが初期化後に自動的にログインするように、登録後に自動ログインを有効にします。有効にしない場合は、ログインページが表示されます。

ステップ7セキュリティ質問を設定し、完了をクリックします。


 「登録後、自動ログイン」に☑をするとSmartPSS Liteが起動します。

図2-5セキュリティの質問の設定

### 2.2.2 ログイン

ステップ1 SmartPSSLite.exeをダブルクリックします。

ステップ2 ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

図2-6ログイン

表2-2ログインのパラメータ

パラメータ	説明
パスワードの記憶	次回ログイン時に再度パスワードを入力する必要があるように、「パスワードを覚えておく」を有効にします。

パラメータ	説明
自動ログイン	自動ログインを有効にして、同じユーザアカウントを使用すると、SmartPSS Liteが次回自動的にログインするようにします。
パスワード忘れ	パスワードを忘れたときにセキュリティの質問でパスワードをリセットします。

## 2.3 パスワードリセット

セキュリティの質問に回答することで、パスワードをリセットできます。

- ステップ1 SmartPSS Liteをダブルクリックします。
- ステップ2 ログインページで「パスワードを忘れ」をクリックします。
- ステップ3 セキュリティに関する質問に答えてから、次へをクリックします。
- ステップ4 ページの指示に従ってパスワードをリセットします。

## 2.4 フィードバック



不具合がある場合は、ページの右上隅で「フィードバック」を選択してから、不具合内容を入力し、画像と添付ファイルをアップロードして、送信をクリックします。 

図2-7フィードバック





### 3 メインメニュー

メインメニューは9つの部分から構成されています。

図3-1メインメニュー

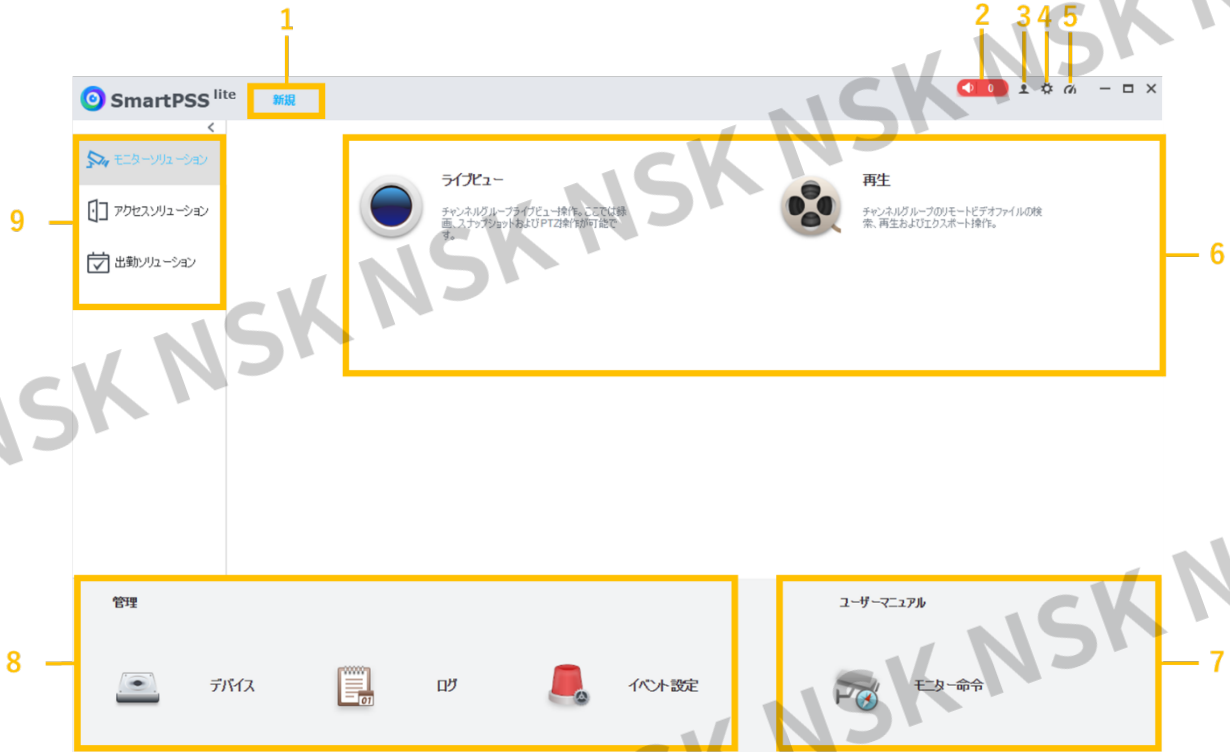









表3-1メインメニューのパラメータ


番号	パラメータ	説明
1	新規タブ	デフォルトでメインメニューを表示します。 機能をクリックすると、各機能タブが追加されます。
2	アラーム音	アラーム音をオンまたはオフにします。アイコン上の数字は、報告された未処理のアラームイベントの数を意味します。番号をクリックしてイベントセンターを開き、アラームイベントの詳細を表示します。詳しくは「8イベントセンター」をご覧ください。

番号	パラメータ	説明
3	ユーザ管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユーザーの追加、削除、権限の設定など、ユーザーを管理するには、をクリックした後、アカウントを選択します。</li> <li>● をクリックし、画面をロックします。ロックを解除するときに、ログインアカウントのパスワードを入力します。</li> <li>● をクリックし、ユーザーの切り替えを選択してログインページに戻ります。新しいアカウントでログインできます。</li> <li>● をクリックし、ユーザーズマニュアルを確認できます。</li> <li>● をクリックし、不具合のフィードバックができます。</li> <li>● をクリックし、製品について、バージョン情報、日付、オープンソースステートメント、ソフトウェアライセンス規約を表示します。</li> </ul>
4	システム	基本設定、モニタ設定などのパラメータを設定します。「4システム構成」を参照してください。
5	システムステータス 	CPUとRAMの使用状況が表示されます。CPU使用率が高い場合は、アイコンが赤色に変わります。
6	機能アイコン	機能アイコンをクリックすると、機能ページに移動します。
7	モニター命令	モニター操作、ツアーなどのマニュアルが表示されます。
8	管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デバイス: デバイスの追加、デバイスのリモート設定、IPアドレスの変更などを行うことができます。</li> <li>● ログ: ログ情報を検索およびバックアップできます。</li> <li>● イベント設定: アラーム連動アクションが設定できます。</li> </ul>
9	ソリューション	ソリューションを選択します。ソリューションの表示/非表示を切り替えます。

## 4 システム

### 4.1 基本設定

プラットフォームの時刻、言語、スキン、その他の機能を設定します。

ステップ1  システム>基本設定を選択します。

ステップ2 適用をクリックします。

基本設定

オートチェック時間 毎日 9:00 または  チェック時間

自動スタート

言語  再起動後に有効

ログ保存時間  日 再起動後に有効

日付形式

時間形式

ネットワーク機能

皮膚  再起動後に有効


最小動作  浮動ウィンドウ表示

初期ページ

プロンプトを閉じる   今後表示しない


図4-1 基本設定

表4-1 基本設定パラメータの説明

パラメータ	説明
オートチェック時間	有効にし、時間を設定するとデバイスが設定された時点で自動的に時刻を同期するようにします。
自動スタート	コンピュータの電源を入れた後に自動的にソフトが起動します。
言語	再起動後に起動する言語を表示します。
ログ保存時間	ログの保存時間を設定すると、今日から設定した時間までのログが保存されます。この機能は、再起動後に有効になります。保存時間を30に設定すると、過去30日間のログが保存されます。
日付形式	データの表示形式を選択します。
時間形式	時間表示形式を選択します。
ネットワーク機能	ネットワークの状態に応じて、ネットワーク機能を選択します。ネットワーク状態が混雑している場合は、「高」を選択することをお勧めします。
皮膚(スキン)	再起動後にアクティブ化されるスキンを選択します。デフォルト設定は灰白色です。
最小動作	「浮動ウィンドウの表示」を選択すると、最小化された後トリガーされたアラームイベントの数を促すアイコンが表示されます。 
初期ページ	起動時にデフォルトで開かれる機能タブを選択します。「新規」と「最後のページを復元」から選択できます。
プロンプトを閉じる	「システムトレイにウィンドウを最小化」と「プログラムを終了」から選択できます。プロンプトが不要な場合は、今後表示しないに☑をしてください。

## 4.2 モニタリング設定

デフォルトストリームタイプ、インスタント再生時間、ローカル記録時間などの機能を設定します。

ステップ1  システム>モニタリング設定を選択します。

ステップ2 適用をクリックします。

モニタリング設定

デフォルトのストリームタイプ

インスタント再生時間

ローカル記録時間  分

デフォルトのデバイスツリー  再起動後に有効

デコード種別

最後のプレビューを再開

IVSルールを表示します

デバイスツリーの選択を保存


図4-2モニタ設定

表4-2モニタ設定パラメータの説明

パラメータ	説明
デフォルトのストリームタイプ	リアルタイムのデフォルトストリームタイプを選択します。「自動適応ストリーム」、「メインストリーム」、「サブストリーム」から選択できます。
インスタント再生時間	値が5分に設定されている場合、直前の5分が再生されます。
ローカル記録時間	ローカル記録時間を選択します。値が30分に設定されている場合、システムはビデオを30分間録画してから、ビデオをコンピュータのデフォルトパスに自動的に保存します。デフォルトのパスは¥Data¥User¥Recordです。
デフォルトのデバイスツリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デバイスツリー(デバイスごと): デバイスをノードとして表示。</li> <li>● 個別ツリー(チャンネルごと): チャンネルをノードとして表示。</li> </ul>
デコードタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソフトデコーディング: グラフィックスカードデコード。</li> <li>● ハードウェアデコーディング: CPUデコード。</li> </ul>
最後のプレビューを再開	ソフトを再起動した後、自動的に最後のプレビューを開きます。
IVSルールの表示	IVSルールが監視画面に表示されます。
デバイスツリーの選択の保存	この機能は現在サポートされていません。

### 4.3 イベント設定

アラーム音を設定し、メールの送信者と受信者をリンクします。


ステップ1  システム>イベントを選択します。

ステップ2 適用をクリックします。

イベント

ループプレイ

グローバルWav

Wavファイルパス  

SMTP

SMTPサーバー

ポート

ユーザー名

パスワード

送信人

受信人

暗号化モード

間隔  (s)


図4-3イベント設定

表4-3イベント設定パラメータの説明

パラメータ	説明
ループプレイ	イベントが発生するとアラーム音がループ再生されます。
グローバルWav	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グローバルWav」を選択し、サウンドファイルを選択します。対応するイベントがトリガーされた後に再生されます。</li> <li>「グローバルWav」を選択しないと、ドロップダウンリストでイベントタイプとサウンドタイプを選択します。対応するイベントがトリガーされた後に再生されません。</li> </ul>
SMTP	<p>メール送信を連動させる必要がある場合は、SMTP機能を有効にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SMTPサーバー:SMTPサーバーアドレス。</li> <li>ポート:SMTPサーバーのポート番号。</li> <li>ユーザー名:SMTPサーバーのアカウント。</li> <li>パスワード:SMTPサーバーのパスワード。</li> <li>送信者:送信者の電子メールアドレス。</li> <li>Receiver:受信者の電子メールアドレス。最大5つ</li> </ul> <p>受信者の電子メールアドレスを入力したら、「テスト」をクリックして、電子メールを正常に送受信できるかどうかをテストします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>暗号化モード:なし、SSL、TLS</li> <li>間隔:設定された間隔に従ってアラーム情報を送信します。</li> </ul>

## 4.4 ローカルパス

ソフトによって収集された画像、ビデオ、その他のデータの保存パスを設定します。

ステップ1  システム>ローカルパスを選択します。

ステップ2 適用をクリックします。

ローカルパス


画像パス C:/Users/Public/SmartPSSLite/Data/User/Picture/Capture

録画パス C:/Users/Public/SmartPSSLite/Data/User/Record

図4-4ローカルパスの設定

## 4.5 データ管理

定期的に装置から出席データを抽出し、コンピュータに保存されているデータ、写真、ビデオを定期的に消去します。

ステップ1  システム設定>データ管理を選択します。

ステップ2 適用をクリックします。

データ管理

出勤記録を定期的に抽出します。  アクセス制御レコードの定期抽出

画像

一定間隔での抽出時間 毎週 日曜日 08:00

勤怠記録を自動抽出

上書き率 5%

データクリア


データベース保存時間 62 日

写真と記録の保存時間 62 日

図4-5データ管理

表4-4データ管理パラメータの説明

パラメータ	説明
出勤記録を定期的に抽出します	設定時間に応じて、出席記録とアクセス制御記録と画像を自動的に抽出します。
アクセス制御レコードの定期抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスコントローラの場合は、あらかじめ出勤ポイントとして機器を設定した後、出勤データを抽出します。</li> <li>「一定間隔での抽出時間」を「毎日」に設定すると、5つのタイムポイントを選択できます。</li> </ul>
勤怠記録を自動抽出	自動抽出機能を有効にすると、デバイスがオンラインになると自動的に出勤記録またはアクセス制御記録を抽出します。
上書き率	上書き機能を有効にし、比率を設定します。 ディスクがいっぱいになると、古いイメージとビデオを比率に従って自動的に上書きします。

データクリア	<p>データベース、写真、記録(映像)の保存時間を設定します。保存時間を越えたデータを自動的にクリアします。毎日00:00またはソフトウェアの起動時にトリガーされません。</p> <p> このデータには温度監視データは含まれません。</p>
--------	---

## 4.6 出勤設定

定期的に出勤サマリーをメールに送信する場合は、SMTP設定機能を有効にする必要があります。

ステップ1  システム> Attendance settingを選択します。

ステップ2 Attendance Summary SMTP Settingパラメータを設定します。

SMTPパラメータの詳細は、表4-3を参照してください。

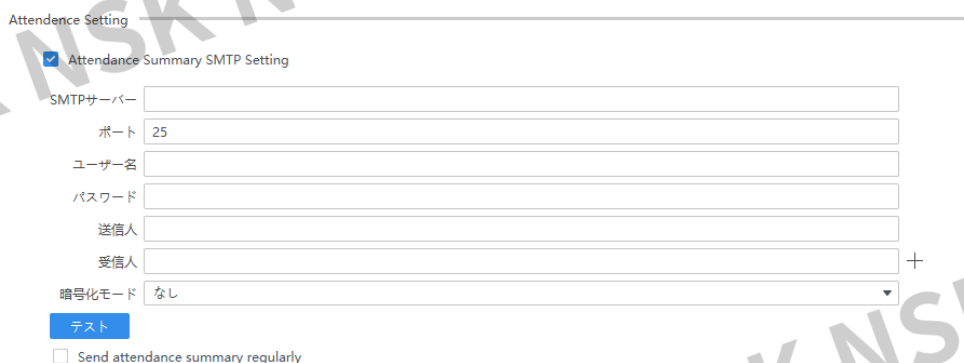


図4-6出席サマリSMTP設定


ステップ3 テストをクリックして、メールアドレスが機能しているかどうかをテストします。

ステップ4 「Send attendance summary regularly」を有効にして、出勤サマリーを定期的にメールに送信します。

ステップ5 適用をクリックします。

## 4.7 バックアップと復元

プラットフォーム設定のバックアップと復元。

ステップ1  システム>バックアップをと復元を選択します。

ステップ2 設定情報をバックアップします。

自動および手動でのバックアップがサポートされています。

手動バックアップ:バックアップパスを選択し、「手動バックアップ」をクリックします。

自動バックアップ:バックアップパスを選択してから、自動バックアップを有効にします。

ステップ3 「復元」をクリックし、必要なバックアップファイルを選択します。

設定により、ファイル設定が復元されます。

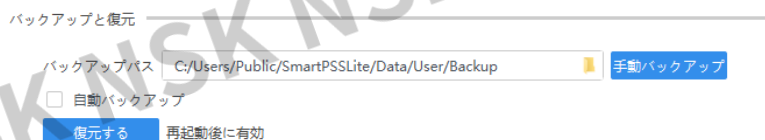


図4-7バックアップと復元

ステップ4 適用をクリックします。

## 5 デバイス管理

SmartPSS Liteでは、デバイスを追加できます。SmartPSS Liteを使用すると、追加後にデバイスをリモートで設定および操作できます。

### 5.1 デバイスの追加

デバイスを追加するには、さまざまな方法があります。IPアドレスやネットワークセグメントなど、状況に応じて最適な方法を選択します。

- 自動検索
- 手動追加
- 一括インポート

#### 5.1.1 自動検索によるデバイスの追加



- 同じネットワークセグメント内のデバイスを一括して追加する必要がある場合や、ネットワークセグメントがクリアでデバイスのIPアドレスが不明な場合は、自動的に検索してデバイスを追加することをお勧めします。
- デバイスを設定するときにConfigToolを閉じてください。閉じないとすべてのデバイスが見つからない場合があります。

ステップ1デバイスページで自動検索をクリックします。

ステップ2ネットワークセグメントの範囲を設定し、「検索」をクリックします。

検索したデバイスの一覧が表示されます。



- 自動検索をクリックして、検索結果を更新します。
- 必要なデバイスを1つクリックし、Modify IP(IPの変更)をクリックして、IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイを変更します。「5.4.3IPアドレスの変更」を参照してください。
- 初期化されていないデバイスを1つクリックし、初期化をクリックします。IPアドレス、サブマスク、ゲートウェイ、ログインパスワードをリセットできます。「5.4.2初期化」を参照してください。





図5-1 検索結果

ステップ3 必要なデバイスをクリックし、追加をクリックします。

ステップ4 ログインユーザー名とパスワードを入力し、OKをクリックして確認します。



- デバイスの追加後も、自動検索ページが表示されます。続けて追加することも、「キャンセル」をクリックして終了することもできます。
- デバイスは追加後に自動的にログインされます。ログインに成功すると、ステータスはオンラインとして表示されます。それ以外の場合はオフラインになります。

### 5.1.2 デバイスの手動追加

特定のIPアドレスまたはドメイン名を持つ1つのデバイスを追加する必要がある場合は、デバイスを手動で追加することをお勧めします。

ステップ1 デバイスページで追加を選択します。

ステップ2 デバイスパラメータを設定します。

- IP経由でデバイスを追加します。

図5-2 デバイスの手動追加

表5-1IP追加のパラメータ

パラメータ	説明
チャンネル名	簡単に識別できるように、デバイスに名前を付けることをお勧めします。
登録モード	IPを選択します。
IP	デバイスのIPアドレスを入力します。
ポート	ポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は37777です。実際のポート番号が優先されます。
ユーザー名	ログインユーザー名を入力します。
パスワード	ログインパスワードを入力します。

- SN経由でデバイスを追加します。

図5-3SN経由のデバイスの追加


表5-2SN付加のパラメータ

パラメータ	説明
登録モード	SN(シリアルナンバー)を選択します。
SN	デバイスのシリアル番号を入力します。

ステップ3 「追加」をクリックしてデバイスを追加します。または「追加と続行」をクリックしてデバイスを追加し、次のデバイスの追加をします。

### 5.1.3 デバイスのインポート

デバイスを一括して追加する必要がありますが、同じネットワークセグメントにない場合は、インポートしてデバイスを追加することをお勧めします。

 xml内のファイルとして整理するファイルをフォーマットしてから、インポートします。

デバイス情報のテンプレートをエクスポートできます。デバイスを選択し、エクスポートをクリックします。

ステップ1 デバイス>インポートをクリックします。

ステップ2 情報ファイルを選択し、「インポート」をクリックします。


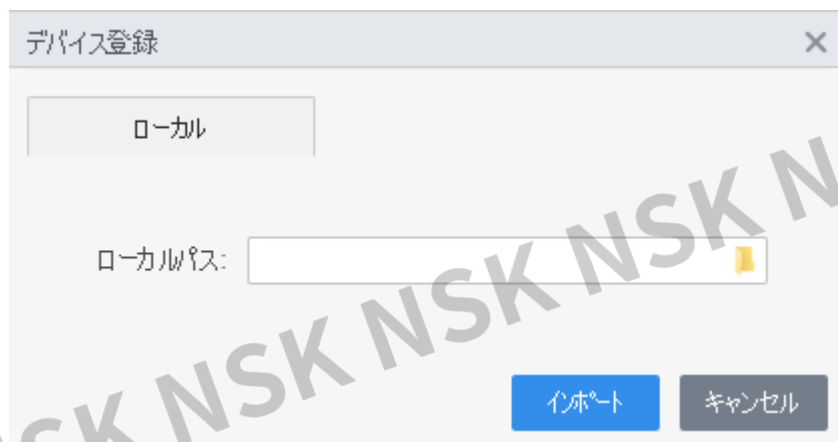

 デバイスは追加後に自動的にログインされます。ログインに成功すると、ステータスはオンラインとして表示されます。それ以外の場合はオフラインになります。

図5-4.xmlでのデバイス情報のインポートフォーマット

## 5.2 デバイスの削除



ステップ1 デバイスページを選択します。

ステップ2 不要なデバイスを選択し、「削除」またはデバイスの右側をクリックします。

ステップ3 スナップショットやビデオが不要な場合は、「デバイススナップショットとビデオを同時に削除します」に囲みます。そうでない場合は、選択しないでください。

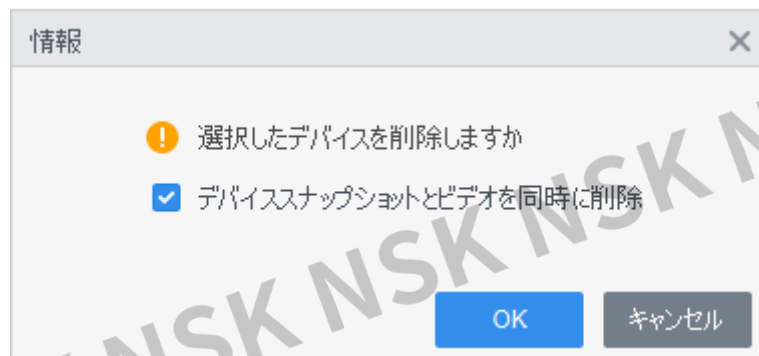


図5-5デバイスの削除

ステップ4 OKをクリックします。

## 5.3 デバイスのバックアップ

デバイス情報をローカルにバックアップできます。

- ステップ1 デバイスページを選択します。
- ステップ2 バックアップする必要があるデバイスを選択し、デバイスページでバックアップをクリックします。
- ステップ3 バックアップ先のローカルパスを選択し、バックアップをクリックします。




図5-6 デバイス情報のエクスポート

## 5.4 デバイスの編集

### 5.4.1 デバイス情報の編集

名前、ログインユーザー名、パスワードなど、追加されたデバイスの情報を変更できます。

- ステップ1 デバイスページを選択します。
- ステップ2 選択したデバイスの右側  をクリックするか、リストでダブルクリックします。
- ステップ3 デバイス情報を編集します。
- ステップ4 「保存」をクリックします。

### 5.4.2 初期化

初期化できるのは、コンピュータと同じネットワークセグメント上にあるデバイスのみです。

- ステップ1 デバイスページ>自動検索をクリックします。
- ステップ2 ネットワークセグメントの範囲を設定し、「検索」をクリックします。



図5-7デバイス一覧

- ステップ3 初期化されていないデバイスを選択し、初期化をクリックします。
- ステップ4 パスワードを設定し、次へをクリックします。

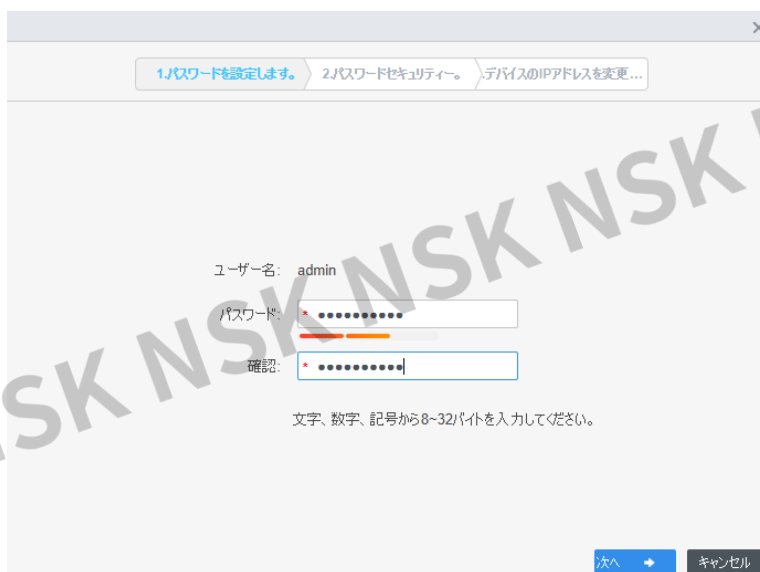


図5-8パスワードの設定

- ステップ5 パスワードリセット用の電子メールアドレスを入力します。

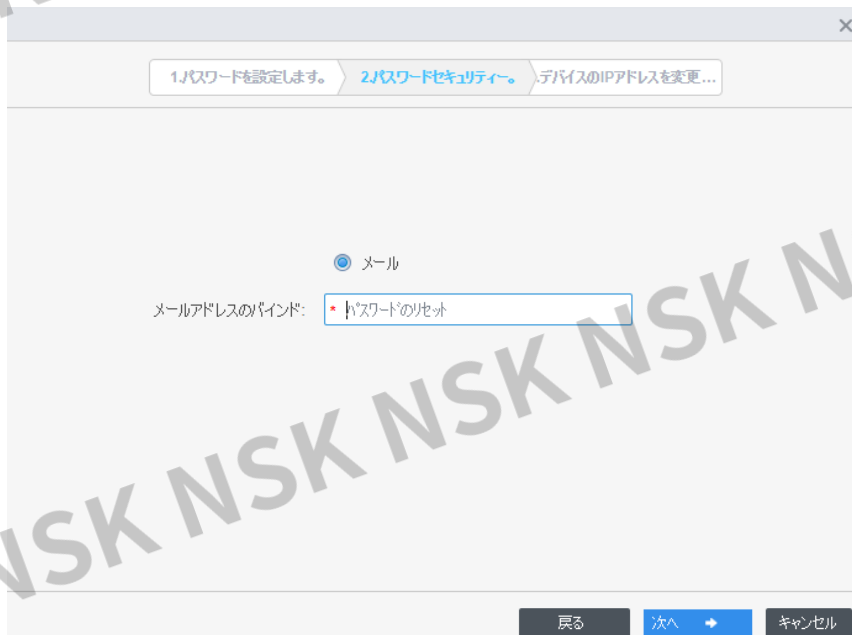


図5-9 予約電子メールアドレス

**ステップ6** 新IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力し、完了をクリックします。  
 入力しない場合、3つのパラメータがデフォルト値になります。

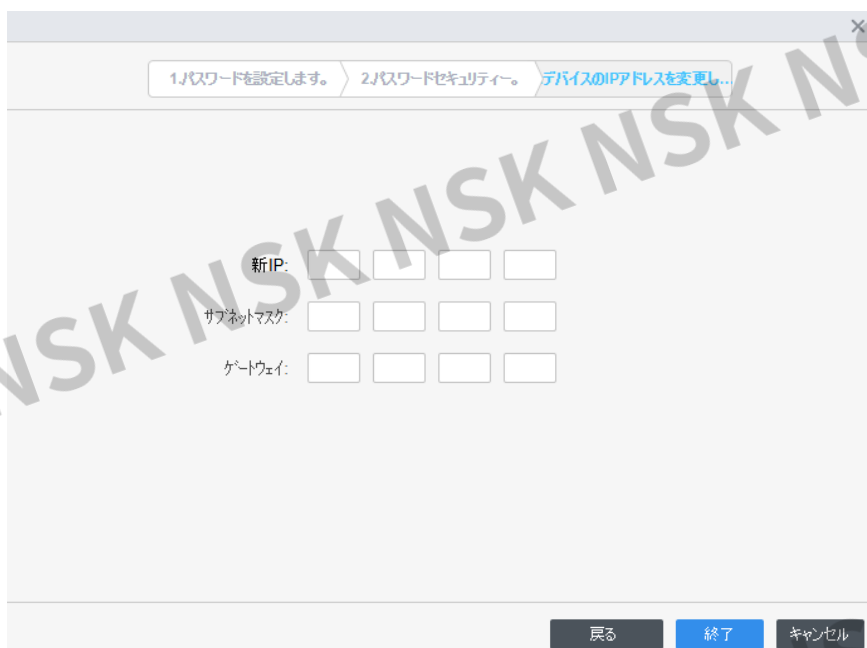
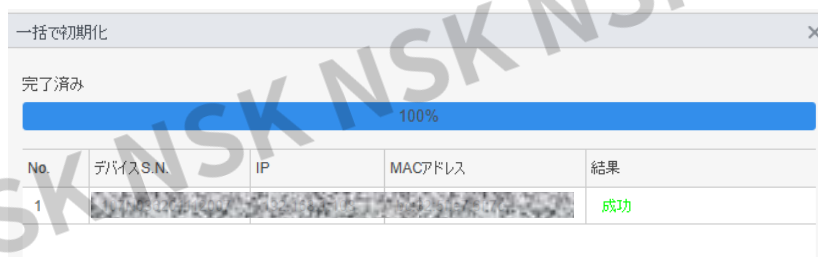


図5-10 IPアドレスの変更



### 5.4.3 IPアドレスの変更

リモートデバイスの初期化後、初期化したデバイスのIPアドレスを変更できます。

- ステップ1 デバイスページで自動検索をクリックします。
- ステップ2 ネットワークセグメントの範囲を設定し、「検索」をクリックします。
- ステップ3 必要なデバイスを選択し、IP変更をクリックします。
- ステップ4 デバイスのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを変更し、OKをクリックします。単一のデバイスまたはデバイスのIPを一括で変更できます。



- 一括変更の場合、新しいIPは最上位のデバイスに割り当てられ、その他のIPアドレスは上から下に1ずつ増加します。たとえば、2つのデバイスを選択し、新しいIPを192.168.1.10に設定した場合、リスト上の最上位デバイスのIPアドレスは192.168.1.10として変更され、次のデバイスは192.168.1.11として変更されます。
- 一括変更の場合、選択したすべてのデバイスにサブネットマスクとゲートウェイが割り当てられます。

図5-11 単一デバイスのIPの変更


図5-12 デバイスのIPを一括変更します

ステップ5 ログインユーザー名とパスワードを入力し、OKをクリックして確認します。

### 5.4.4 デバイス設定

アクセス制御デバイスでは、時刻設定、ファームウェアのアップグレード、デバイスの再起動、担当者抽出、出席記録の抽出などの設定を行うことができます。

手順

ステップ1 デバイスページを選択し、 をクリックします。




No.	名前	IP	装置タイプ	デバイスモデル	ポート	チャンネル番号	オンラインステータス	SN	操作
2	testMilesight	107N036200716093	ネットワークカメラ	IP PTZ Camera	N/A	1/0/0/0	オンライン	107N036200716093	  

図5-13 デバイスの設定

ステップ2 デバイスパラメータを設定します。

● 時刻設定

システム



時刻設定



更新



再起動



ローカルアラームの連携

データ



従業員を抽出



出勤記録をエクスポート

時刻設定 ×

日付形式

時間形式

時間帯

システム時間   時刻同期

DST有効

開始時間

終了

NTP

NTPサーバー

ポート  (1-65535)

更新期間  分(0-65535)

保存
キャンセル

図5-14デバイスのIPを一括変更します

表5-3時刻設定のパラメータ

パラメータ	説明
日付形式	日付の表示形式を設定します。
時間形式	時刻の表示形式を設定します。
時間帯	タイムゾーンを設定します。
システム時間	システム時間を設定します。「時刻同期」をクリックして、システムの時刻をPCの時刻と同じに設定することもできます。
DST有効	DSTを有効にします。開始時刻、終了時刻を設定します。
NTP	NTP時刻と同期する必要がある場合は、NTPサーバを有効にします。サーバアドレス、ポート、更新期間を入力します。



- ファームウェアアップグレード  
アップデートするピンを選択し、指示に従って操作します。



図5-15ファームウェアのアップグレード

- 再起動  
クリックしてデバイスを再起動します。
- ローカルアラームの連携  
クリックしてアラーム連携情報を設定し、「保存」をクリックします。



図5-16ローカル・アラーム連動

表5-4外部アラームのパラメータ

パラメータ	説明
アラーム入力	必要に応じて、アラーム入力チャンネル番号を選択します。
アラーム出力	必要に応じて、アラーム出力チャンネル番号を選択します。
出力遅延	設定した時間が経過すると、アラームが出力されます。
現在の構成をコピーする	使用できません。

- 従業員を抽出  
担当者を選択し、デバイスからコンピュータに人事情報を抽出します。
- 出勤記録をエクスポート  
期間を設定し、出勤記録を手動でエクスポートします。



アクセスコントローラが出勤ポイントとして設定されていることを確認してください。

#### 関連操作

一部のカメラ、NVRデバイスでは、をクリックできます。デバイスのWebクライアントにジャンプします。

### 5.4.5 アラーム設定 ※現在は使用できません。

External Alarm(外部アラーム)ページに移動し、パラメータを設定します。

図5-17外部アラーム

External Alarm

Alarm Input 1

Alarm Output 1 2

Output Delay 300 Second(1-300)

Door Linkage Door 1 Always ... Always... Normal

Copy current configuration to None

Apply Save Cancel

表5-5時刻設定のパラメータ

パラメータ	説明
アラーム入力	必要に応じて、アラーム入力チャンネル番号を選択します。
アラーム出力	必要に応じて、アラーム出力チャンネル番号を選択します。
出力遅延	アラームは、定義された継続時間後に遅延されます。
現在の設定のコピー先	必要に応じて、現在の設定を他のデバイスにコピーできます。

## 6 ログクエリ

アラームイベント、クライアントログ、デバイスログをクエリできます。

ステップ1 新規ページで>管理>ログを選択します。

ステップ2 ログタイプとログ時間を選択し、必要に応じてキーワードを入力します。

ステップ3 検索をクリックします。

ステップ4 ログをローカルにバックアップするには、「バックアップ」をクリックします。

図6-1ログのクエリ

No.	時間	ユーザー	イベントタイプ	デバイス名
1	2022-07-08 13:17:31	admin	ユーザログイン	
2	2022-07-08 13:15:56	admin	ユーザログアウト	
3	2022-07-08 13:08:30	admin	ユーザログイン	
4	2022-07-08 13:08:15	admin	ユーザログアウト	
5	2022-07-08 13:07:04	admin	ユーザログイン	
6	2022-07-08 13:06:50	admin	ユーザログアウト	
7	2022-07-08 10:54:38	admin	ユーザログイン	
8	2022-07-08 09:58:19	admin	ユーザログアウト	
9	2022-07-08 09:57:17	admin	ユーザログイン	
10	2022-07-08 09:51:58	admin	ユーザログアウト	
11	2022-07-08 09:09:21	admin	ユーザログイン	

## 7 イベント設定

イベントを設定することで、アラーム音、メール送信、アラーム連動などのイベント連動を設定できます。

- アクセスコントローラ、カメラ、ストレージデバイスに接続された外部アラームリンクを設定します。
- デバイスによって、サポートされるアラームのリンクが異なります。実際のページは、デバイスによって異なる場合があります。
- アクセスコントローライベントのリンクを設定します。
  - ◇ アラームイベント
  - ◇ 異常事象
  - ◇ 通常のイベント

ステップ1 新規ページ>管理>イベント設定をクリックします。

ステップ2 対象デバイスを選択し、アラームイベント>侵入イベントを選択します。

ステップ3 侵入アラームの右側をクリックして、機能を有効にします。

ステップ4 侵入アラームの連動アクションを設定します。

- アラーム音を有効にします。
- アラームメール送信します。
  - 1) メール送信を有効にし、SMTPの設定を確定すると、自動的にシステム設定ページに移動します。
  - 2) サーバーアドレス、ポート番号、暗号化モードなどのSMTPパラメータを設定します。侵入イベントが発生すると、システムは指定された受信者にアラームメールを自動的に送信します。

図7-1 侵入アラームの設定



- リンクビデオを設定します。

「リンクビデオ」をクリックし、必要に応じてビデオレイアウトを選択します。侵入アラームがトリガーされると、ビデオが自動的にページに表示されます。
- 外部アラーム入力を設定します。
  1. アラーム入力タブをクリックします。
  2. アラーム入力に対応したデバイスを選択し、アラーム入力チャンネルを選択した後、外部アラームを有効にします。
  3. アラーム出力をサポートするデバイスを選択し、アラーム出力ページを選択します。
  4. アラーム連動の「自動開放」を有効にします。
  5. 期間を設定します



図7-2アラーム連動の設定

- 防護時間を設定します。2つの方法があります。
  - ◇ 方法1:カーソルを移動して期間を設定します。カーソルが鉛筆に変わったら、クリックして期間を追加します。カーソルが消しゴムに変わったら、クリックして期間を減らします。緑色は有効な期間表示です。

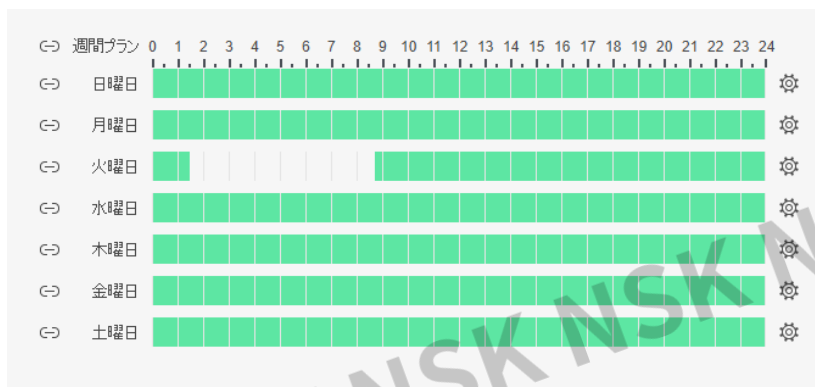


図7-3防護時間の設定(方法1)


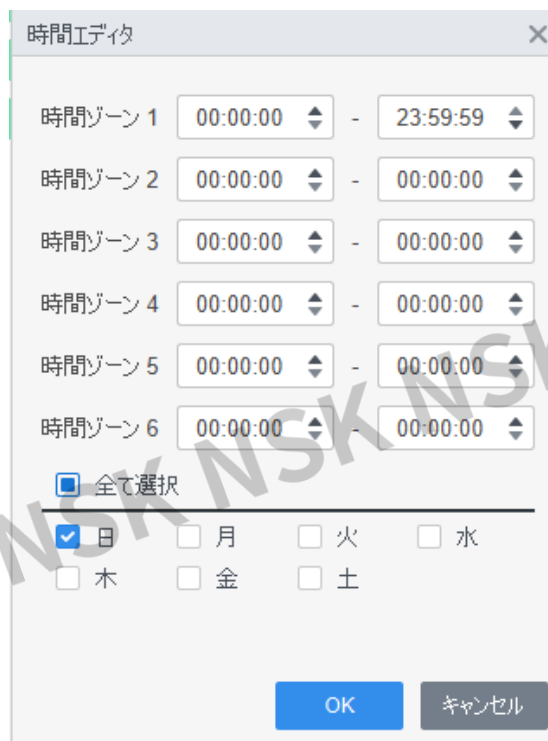
- ◇ 方法2:  クリックして期間を設定し、「OK」をクリックします。

図7-4防護時間の設定(方法2)



- ステップ5 「コピー先」をクリックし、適用するアクセスコントローラを選択して、OKをクリックします。
- ステップ6 「保存」をクリックします。

## 8 イベントセンター

リアルタイムアラームイベントを表示および処理できます。

ページの右上隅にある数字をクリックして、イベントセンターに入ります。



### 8.1 ページの概要

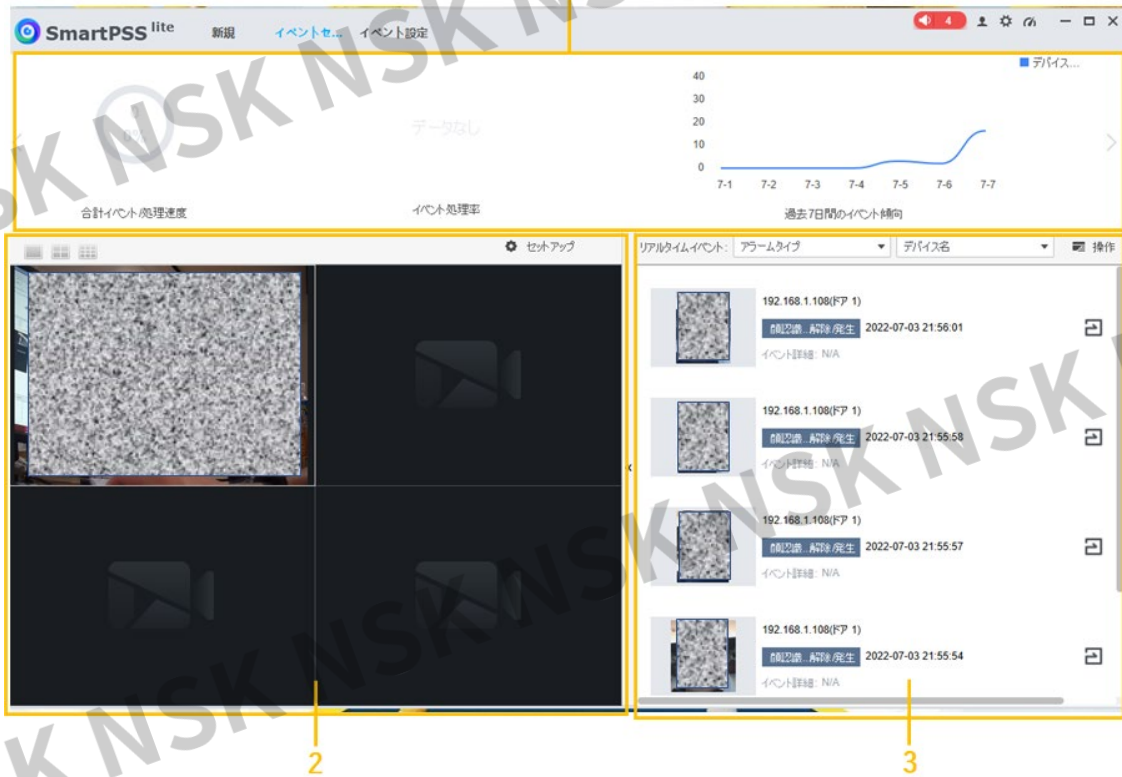



図8-1 イベントセンター

表8-1 イベントセンターパラメータの説明




番号	パラメータ	説明
1	イベント統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合計イベント/処理速度: イベントの合計と処理速度の円グラフを表示します。チャートをクリックすると、未処理イベントの情報が表示されます。</li> <li>● 「イベント処理率」: さまざまなイベントタイプの処理率をリアルタイムで表示します。</li> <li>● 過去7日間のイベント傾向: 上位5つのイベントタイプのグラフを7日間(今日を除きます)で表示します。グラフをポイントすると、アラームイベントの特定の番号が表示されます。</li> </ul> <p> ● クリックすると各アラームイベントの詳細を表示します。</p>


番号	パラメータ	説明
2	ライブビュービデオ	設定したチャンネルビデオをプレビューします。《プレビューページをクリックします。
3	リアルタイムイベント	リアルタイムアラームイベントを表示します。アラームの種類やデバイスに応じてイベント情報を検索できます。

## 8.2 ライブビュービデオの設定

ライブビュービデオチャンネルを設定し、チャンネル画像、ビデオ、ビデオトークをキャプチャします。

手順

ステップ1    をクリックして、イベントセンターページで画面番号を選択します。

 1、4、9画面分割のみをサポートします。

ステップ2 画面を右クリックし、「ストリームタイプ」をクリックしてから、ライブビューするビデオチャンネルを選択します。

ステップ3 「セットアップ」をクリックし、実際のニーズに応じて構成を選択します。

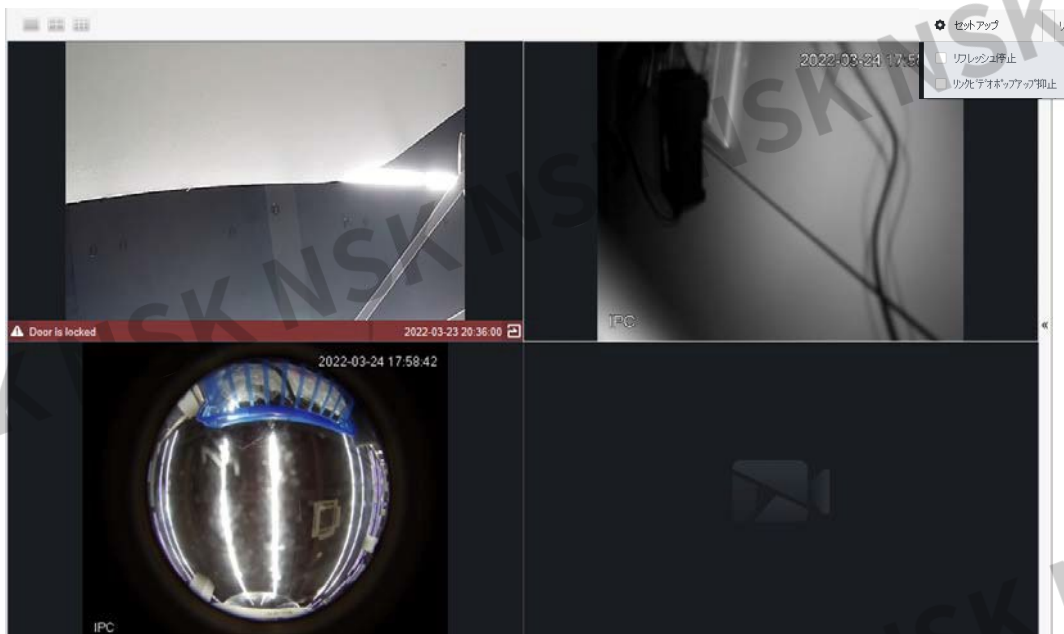


図8-2セットアップ

表8-2セットアップ












パラメータ	説明
リフレッシュ停止	リアルタイムアラームイベントの更新を停止します。
リンクビデオポップアップ抑止	イベント連動ビデオのポップアップを停止します。

関連操作

ライブビューのビデオ操作。

画面をポイントすると、ショートカットアイコンがウィンドウの右上隅に表示されます。

表8-3ライブビュー動作パラメータの説明

アイコン	パラメータ	説明
	ローカル録画	クリックすると、現在の画面ウィンドウにビデオが録画されます。もう一度アイコンをクリックすると、録画が停止し、ビデオがコンピュータに保存されます。デフォルトの保存パスは”../Data/User/Record”です。保存パスは、  >システム>ローカルパス>録画パスで変更できます。
	スナップショット	現在のビデオ画面のスナップショットを画像としてコンピュータに保存します。デフォルトの保存パスは「../Data/User/Picture/Capture」です。保存パスは、  >システム>ローカルパス>画像パスで変更できます。
	オーディオ	アイコンをクリックして、カメラの音声をON/OFFします。
	音声通話	アイコンをクリックすると、該当するカメラの音声通話をON/OFFします。
	インスタントリプレー	アイコンをクリックして、インスタント再生機能を開いたり閉じたりします。再生時間は、  >システム>基本設定で設定できます。  インスタント再生機能を有効にする前に、デバイスにビデオが必要です。
	ズームイン	アイコンをクリックし、マウスホイールをスクロールして画面をズームインまたはズームアウトします。
	ビデオを閉じる	アイコンをクリックしてビデオを閉じます。